

環境・エコドライブ特集号

SRを活用する物流会社の、北海道・丸吉運輸機工株式会社様と大阪・越野運送株式会社様が、平成22年度エコドライブコンテストにて環境大臣賞、優秀賞をそれぞれ受賞されました。SR導入などエコドライブ推進と、環境意識改善への取り組みについて両社様からお話をお伺いいたしました。

目次

1. 主役はドライバー、社員の創意工夫と情熱でエコドライブNo.1!
丸吉運輸機工株式会社 殿 P1-2
SEDAC、今春から本格始動! P2
2. 社員の理解なくして成長なし!
個の力の総和を会社の成長に繋げる
越野運送株式会社 殿 P3-4
イベント紹介 P4

主役はドライバー、社員の創意工夫と情熱でエコドライブNo.1!

環境大臣賞受賞 丸吉運輸機工株式会社

代表取締役社長 **吉谷 隆昭** 様(左)

関東営業所 所長 **石澤 道哲** 様(右)



丸吉運輸機工株式会社

本社所在地：北海道北広島市輪厚681番地14
営業拠点：苫小牧営業所、関東営業所
設立：1979年6月
代表者：代表取締役社長 吉谷 隆昭
従業員数：70名

事業内容：一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物収集運搬事業、建設資材賃貸業、土木工事業（土木工事業、とび・土木工事業、鋼構造物工事業）、倉庫管理業、石油製品販売業 不動産賃貸業、以上の附帯事業
車両台数：80両（トラクターヘッド26両、増トンユニット・他9両、シャーシ39両、本社と各営業所の合計台数）
SR導入：2009年12月、車両28台にSRVideoを導入済

会社概要



1 エコドライブ効果 ～数値的な結果+数値化できない大きな相乗効果を獲得!

効果1

平均燃費**26%**向上、保険割引率**30%**アップ
車両修理費マイナス**27%**を達成

効果2

コミュニケーション、団結力、社内活性化、
社外クレーム減などの**相乗効果大!**

2 エコドライブコンテスト応募のきっかけ

2005年、関東営業所の進出にあたり、当時、排気ガス規制に対応できる車両が1台もなく、同規制をクリアできる車両を新たに購入。この時に『「安全」と「環境」対策が、これからの運輸会社に必須になる』ということを確認しました。まず、「Gマーク」と「グリーン経営」の2つの認証を取得。その後、安全委員会と環境委員

会を設置し、1年間にわたり社内活動を続けました。社内の環境活動の質をレベルアップすることを目的とし、2008年、エコドライブコンテストに参加。その年に入賞し、2009年に特別優良活動賞を受賞。2010年には、環境大臣賞を受賞(12,224事業社中、1位) させていただきましました。

3 受賞までの取り組み(その1) ～社内の体制と組織づくり

社内での「安全」と「環境」の実現には、SRが必要であると感じて導入を決定。同時に社内でのエコドライブを浸透させるべく、7つのスローガンを掲げました。SR導入に関して消極的な意見が社内で見られましたが、「SR点数を上げるのが目的ではなく、自分の運転を客観的に見てみよう」とドライバーに伝えました。運転をデータ(数値)化し、分析することで改善ポイントを指摘。「命令ではなく問いかける」ことでドライバーが自分の運転について真剣に考えるようになることを心がけました。SRデータを元にドライバー同士で安全と環境を語り合う「班会議」を設置し、そこで上がった声「役員会議」まできちんと届く体制作りを行いました。

1. 熱く語ろう
 2. 旗を掲げよう
 3. 見える化しよう
 4. 全員で取り組もう
 5. 数値化しよう
 6. 褒めてあげよう
 7. 皆で楽しもう
- エコドライブを楽しむ
7つのスローガンを決定!



4 受賞までの取り組み(その2) ～苦労した点と継続のコツ

当初、数値にこだわりすぎて、「〇〇%燃費向上につき、△△円の報奨金を払う」という型にはまった管理をしていました。そんな中で「重量物を積載・運転しているのだから、燃費が悪いのは当然だ」という現場の声が上がりました。この声を受けて、「流量計燃費実験」を実施したところ、燃費は積載重量で大きく左右されることがわかりました。これにより数値ばかりを追うのではなく、運転以外の周囲(安全と環境を推進化する仕組み)に目を向け、「(会社全体でエコドライブを)楽しくやろう」という方向に進んでいきました。



社内にて流量計燃費実験を実施(写真)

5 現在の取り組み紹介(その1)～会社の方向性を社員全員に知らせる工夫

会社の方向性がわかる資料(社内報や安全マニュアル、ポスターなど)を社内中に掲出し、社員全員が一目でわかるように「見える化」しました。また業務や社内における環境活動を1枚の絵にまとめることで、各社員が会社の取り組みのどの部分を担っているかを理解してもらいました。エコドライブは、運転の前と後を含めた取り組みがあってこそ効果が出ます。より人間的な部分を重視した社内の環境づくりに力を注ぎました。

社員全員で取り組んでいることを理解してもらうため、いくつかの委員会を設置。委員会主催で毎月1回、環境やエコドライブに関する講習会や勉強会、全社員参加のゴミ拾い運動などの環境活動を実施しています。委員会を中心に、各班、役員、社長を含め**全員で活動に取り組む**という一体感が生まれました。

様々な取り組みが着実に成果に繋がったのは、「上から下へ」「下から上へ」の情熱や気持ちが伝わっているからだと思えます。



様々な環境活動の取り組みを写真や絵で1枚の絵にすることで、会社の方向性や社員の役割分担がきちんと伝わるようになった



講習会や勉強会、全社員参加のゴミ拾い運動などを開催

6 現在の取り組み紹介(その2)～新人事評価制度で数値化できない努力や情熱に応える

今回の受賞で高く評価されたのが、ドライバーの新人事制度です。燃費改善率のような数値だけでなく、**目に見えない社員の努力に光を当てたい**という目的で取り入れました。

本人評価と第3者評価によって「安全・環境意識」「責任性」「協調性」「コスト意識」など7項目を業務評価として数値化し、賞与や給与査定に反映させることで、仕事の本質的な部分について社員同士が「本音でぶつかりあえる環境」を作りました。自己評価によって、ドライバー自身が行動を振り返ったり、反省ができるようになり、それが自己成長につながりました。

2 協調性	(1)上司・部下・同僚・他の職場の人々と、折り合いよく仕事を進めていこうとする誠意はどうか (2)組織の一員として目的達成のために、自分の感情や都合を抑えて、仲間と協力して仕事に取り組んでいたか (3)自分なりの意見を持ちながら、仕事のやりかたをせず、自発的にグループ・メンバーと一緒に働いていたか (4)配属係と相互にコミュニケーションを取り、意欲的・協力的に仕事に取り組んだか
4 安全・環境意識	(1)常に安全・環境意識を持ち、無事故で業務を遂行しようとしていたか (2)デジタルコ、セーフティレコーダー等の安全機器の取り付け意義を理解し、安全運転・省燃費・エコドライブの意識向上に努めていたか (3)安全会議やミーティング等において、安全(運転時・作業時等)の向上に關し、積極的に取り組み、発言していたか

人事考課表(左)。燃費改善率のような数値だけでなく、「協調性」や「安全・環境意識」など社員の目に見えない努力まで人事考課表に組み込まれている(右)

7 今後の展開～行政や荷主様、他社を巻き込むムーブメントを目指す

今回の受賞であらためて感じたのが、「結果より過程が大切」ということ。社員全員が積極的に参加し、楽しみながらエコドライブに取り組みました。数値的な改善効果はもちろん、社内全体の活性化や、社員の団結力が高まったり、外部からのクレームが減ったりと数値以上の相乗効果が得られました。これは、ドライバーがエコドライブの主体となり、率先して実行した結果であり、社員全員で得た結果だと思えます。

今後は、行政や荷主様、同業他社を含めて**運輸・物流業全体が、CO₂削減の方向へ向かうような**、交流やお手伝い、新たな事業展開ができればと思っています。

従業員の家族や近隣の子供たちを集めて行われた「環境・安全・トラック実車体験」。土と触れ合うレクリエーションや、車両同乗体験走行で安全と環境について、楽しみながら学ぶ



企業からエコドライブを推進し、社会へ貢献!

データ・テックが呼びかけ人となり、日常業務において車両を使う企業同士がエコドライブを普及・促進させるコンソーシアム「SEDAC(セダック※)」が、今春、発足します。

企業単位でエコドライブを推進することで、CO₂排出量を減らすことを目的とし、昨年末から準備会をスタート。今春からの本格始動を目指して準備中です。同準備会は、佐川急便株式会社様をはじめ、大手バス会社、リース会社など7社の企業や有識者で構成(環境省がアドバイザーとして参加)。SEDACでは、参加する企業に対して、①「**正確なエコドライブの知識(の共有)**」、②「**一体となった職場の取り組み**」——を実現させるため、SRを使った燃費実験や実車によるエコドライブ講習会などを企画・運営し、より多くの企業にエコドライブの有効性を体感していただきます。さらに社内でのエコドライブ推進の方法や具体的な導入ノウハウも、事例セミナーで紹介します。

同時にSEDAC公式サイトをオープンさせ、SEDAC会員の取り組みや成果、各セミナー内容、燃費実験などの情報を公開・発信することで、SEDAC参加企業のエコドライブへの取り組みを、社会に広く認知してもらう意向です。現在、SEDACに参加してくださる企業を募集しています。

セダック SEDAC、今春から本格的に始動!

ぜひ、ご参加を!



※「セイフティ・エコ・ドライブ・アクション・コンソーシアム(Safety Eco Drive Action Consortium)」の略。「エコドライブ」という行動(アクション)を自分で起こし、CO₂削減の成果を挙げるために企業が協力してつくる自立した組織を目指す

SEDACに関するお問い合わせ先
TEL 03-5703-7060 (株式会社データ・テック 戦略室・太田)

社員の理解なくして成長なし！
個の力の総和を会社の成長に繋げる



エコドライブコンテスト優秀賞

越野運送株式会社

代表取締役社長 **越野 泰弘** 様(左) 管理部長 **杉崎 幹太** 様(右)

会社概要

越野運送株式会社

本社所在地：大阪市都島区都島本通5-4-22
営業拠点：兵庫営業所、滋賀営業所
設立：1953年1月
代表者：代表取締役社長 越野 泰弘
従業員数：60名

事業内容：運送事業（精密機器輸送サービス、グリーン物流・エコ配送サービス、スポット輸送サービス、家具・家電配送・事務所移転、イベント関連、専属輸送、産業廃棄物収集運搬、その他）
車両台数：63両（2tパワーゲート車、4tパワーゲート車、4tワイドウイングなど。両車両ともに天然ガス車を含む）
SR導入：2006年8月、車両52台にSRPocketを導入済



1 エコドライブ効果 ~コストダウンに繋がり、社員や事業所、会社の目標となる

効果1 平均燃費 **19.7%** 向上
※2000年5.99km/ℓ → 2010年7.17km/ℓ

効果2 社内外の**事故が大幅に減少**
(事故減少による保険割引率**78%**向上)
社員の環境意識が高まり、より高い目標を目指す

2 エコドライブ推進への経緯~SRがカンフルとなり、さらに燃費効果が向上

「ありがとうございます。感謝の気持ちを行動に！」を会社のモットーとし、お客様への感謝を、きちんと行動に表すという姿勢は、従業員一人ひとりに浸透しています。例えば、「配送先でゴミを見つけたら拾う」「配送後、お客様が作業しやすいように荷物を置く」——など、弊社では**ドライバーを「サービスマン」と位置づけ、お客様への心づかいが自然にできること**を大切にしています。10年前にエコドライブを知り、2000年から社内勉強会を通じながらエコドライブを推進・継続していました。2006年からSRを導入。その時点でもエコドライブを徹底することで燃費効果を上げていたので、「さほど効果はないのでは？」とと思っていましたが、さらに**5%以上の燃費効果**を生み出しました。

SR導入の当初の目的は、

1.安全意識の向上(事故ゼロ) + 2.社員の労働時間管理

燃費向上には、さほど期待していなかった……

SR得点が新たな目標となり、燃費が**5%以上**向上！
社内外を含めてケアレスミスによる事故が激減！
事故割引率が過去最高に！

SR導入によって相乗効果が生まれた !!

3 エコドライブコンテスト応募のきっかけ ~環境認証取得が起点となった

社員の努力と成果をもっと外部に知らせたかったので、2009年にエコドライブコンテストに応募しました。全国の物流関連の事業所が数多く参加していますので、入賞を狙うのではなく、自社のエコドライブがどのレベルにあるかを確認するためでした。当初、エコドライブはコスト削減のため燃費を抑えることを第一目標としてスタートしました。その後、グリーン経営認証とISO9001認証を取得するため、社内管理体制や「車両常備マニュアル」を刷新。これにより2008年に両認証を取得しました。**グリーン経営認証取得がきっかけ**となり、エコドライブ推進を本格化することになりました。

グリーン経営認証、ISO9001認証取得

車両常備マニュアル 車両運行・整備・点検をはじめ「グリーン経営目標」「ISOに必要な要件」「運輸安全マネジメント」の情報を1冊に集約・一元化

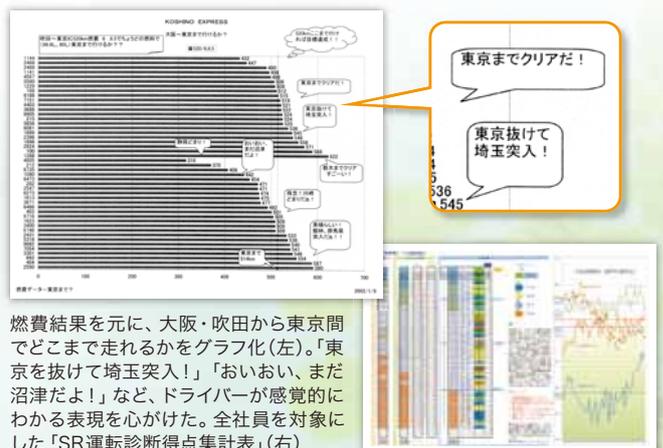
目で見てわかる資料 「SR運転診断得点表」「コシノクスプレス/大阪〜東京まで行けるのか?」「eco news (エコニュース)」など

自己成長ノート(改善提案書) ドライバー自身が書くことで、自分の運転や業務を振り返り、自己の目標を確認したり、新たに設定できる

エコドライブコンテスト参加へ

4 受賞までの取り組み(その1) ~わかりやすさと熱意でエコドライブへの本気を社員に見せる

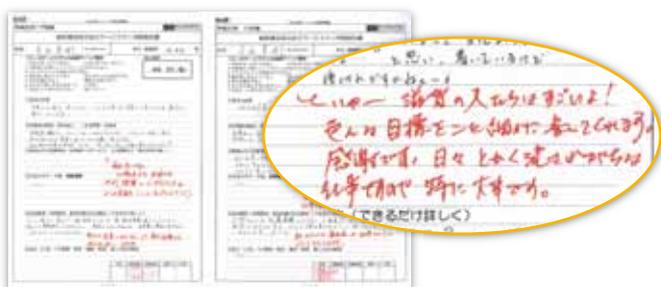
エコドライブを社員に理解してもらうため、社内勉強会を実施。併せて、ドライバーが「目で見てわかる」資料づくりを行いました。エコドライブを命令ではなく、「その背景や会社のビジョンがあってエコドライブをやる」ということを、社員にしっかり理解してもらうため、社長も自ら参加して熱心に説明を行いました。ドライバーをグループ分けし、SR導入当初からSR得点を元にして「SR運転診断コンテスト」を実施。同時に全ドライバーの「燃費ランキング」を発表して、部署(事業所)と個人の平均燃費の順位が一目でわかる、グラフや表などデータ化を行いました。総評(分析)や総合アドバイスを盛り込み、常に高い目標設定を行うことで、社員がエコドライブに対して真剣に取り組むように心がけました。また年を追うごとに「**上級目標**」を設定し、全体のレベルアップを図っています。本年度は、「自己申告(設定)・宣誓決意」方式を採用。ドライバーすべてが「0.01km/ℓ、または0.1%の燃費率向上」を目指す「全車達成チャレンジ」を掲げました。



5 受賞までの取り組み(その2)～現場の生の声に耳を傾ける

ドライバーは、毎月「自己成長ノート(改善提案書)」を提出。これは月間報告書を兼ねるもので、「必須マインド確認」「来月の目標」「目標達成報告」「お客様情報」から、「今月の不平・不満、改善提案」まで、日々の業務での気づきや現場の声を詳しく報告してもらっています。報告書は主任や部長、所長が目を通し、**社長自らもコメントを書き込み**ます。社員間でのコミュニケーションにもなるし、ドライバーがどういう意識で日々の業務やエコドライブに取り組んでいるかが、とてもよくわかります。

全事業所、全社員分の提出書類に目を通し、コメントを行うことは、非常に時間と手間がかかる作業ですが、管理者、社員とともに「**継続の重み**」を共有してもらうためにも続けています。



「自己成長ノート(改善提案書)」には、社員一人ひとりの仕事に対する情熱や反省などが書き連ねられている。社長直筆による丁寧な書き込みが社員の励みとなるとい

6 受賞までの取り組み(その3)～家族のため、社会のため、地球のための活動への意識づけ

毎月、社内報「eco news(エコニュース)」を発行しています。エコドライブをはじめ、身の回りのエコ活動やトレンドまで、様々な環境トピックスをデータやイラストなどを多用し記事として紹介(現在までに通算39号にいたる)。環境やエコに関する世界的な動きやトレンドを幅広く理解してもらい、「**お客様→家族→地域社会→地球**」のためといった具合に、エコドライブをエコ活動としてより深く意識づけしてほしいからです。

今回、優秀賞をとった記念として、通常の金一封ではなく、鉢植えを社員に進呈しました。家に鉢植えを持ち帰ってもらい、受賞結果を家族に堂々と自慢してほしいからです。ちょっとしたことですが、**エコを通じたコミュニケーション**の大切な工夫だと思えます。



「eco news(エコニュース)」は、エコドライブに限らず、グリーンカーテンやLED照明、地球温暖化問題など話題が広い。右は、エコドライブコンテストと優秀賞受賞の記念として社員全員に送られた鉢植え

7 まとめ～すべてはコストダウンに繋がり、選ばれる物流会社となる

エコドライブを進める上で、社員に「**あたり前**」の意識を持ってもらうことを心がけています。新しい試みを実行し、達成できたら「あたり前」のことに捉え、安全・品質・環境への活動レベルを加速しながら上げていく。それには、新しいアイデアや工夫を凝らした様々な施策を、**PDCAサイクルとして計画・実行・検証**していくことが大切です。

弊社はエコドライブコンテスト「優秀賞」と同時期に、グリーン物流パートナーシップ優良事業「国土交通大臣賞」も受賞しました。エコドライブの取り組みは、環境問題の一助とともにすべてコストダウンに繋がります。「**安全・品質・環境**」の3つの柱とともに、**低コスト配送を実現**することで、「(荷主様に)選ばれる」物流会社を目指します。

株式会社 データ・テック イベント紹介

RIDEX RFIDソリューション EXPO内

物流ITソリューション フェア

日時 2011年5月11日(水)～13日(金)

場所 東京ビッグサイト

RFIDソリューションEXPO (RIDEX)は、RFIDを活用した各種ソリューションが一堂に出展する日本最大の専門展です。生産管理や品質管理、物流、経営企画、情報システム、購買など責任者や担当者の皆様、データ・テックブースにぜひお越しください。

自動車技術展・EV技術展 人とくるまのテクノロジー展2011

AUTOMOTIVE ENGINEERING EXPOSITION

日時 2011年5月18日(水)～20日(金)

場所 横浜国際会議場(パシフィコ横浜) 展示ホール

世界から最新技術・製品が集う自動車技術者のための日本最大の技術展。SRシリーズやSafetyRec、参考出品などの展示を行う予定です。最新事例やとっておきの情報も多数ご用意してお客様をお待ちしております。



Being Group様が、同展示会にてご講演!

日時 2011年5月20日(金)

テーマ 「身近なITを駆使し『物流』が主役に!」
～見える物流システム～

ぜひご来場下さい!

株式会社 データ・テック

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
http://www.datatec.co.jp